

＼ 海女の愛ちゃんが湯く！ ／

# サステナブルツーリズム編

皆さんこんにちは。海女の愛ちゃんです。

桜の開花はいつも待ち遠しいですね。各地の開花宣言を聞きながら徐々にその時が近づいてくる日本独特の高揚感が好きですが、開花が早まり以前は4月の入学式の頃に満開だった桜が、最近では3月の卒業式にはもう満開！のイメージに変わってきましたね。嬉しいことに私の家の窓からも開花を前にした桜の木が見えます。日を増すごとに芽吹いていき満開を心待ちにしているのですが、春は嵐もよくやってきます。強風で枝が大きく揺れているのを心配の眼差しで見ながらレポートを書いています（笑）

3月中旬、桜が咲く少し前に、市観光商工課の北橋さんと国際交流員のカゾさんと一緒に相差町の千鳥ヶ浜に取材に行ってきました。当日は天候に恵まれ現地に着くと、一面に広がるエメラルドグリーンの海を眺めた3人は感激して写真を何枚も撮影していました。同じ鳥羽市内でも石鏡の海の色とは違いますね。

それでは『サステナブルツーリズム編』の2回目は、南鳥羽の相差町にある「浜の雅亭 一井」です。

## 浜の雅亭 一井の取り組み

長さ約 500 メートル、鳥羽十景の一つに数えられる千鳥ヶ浜海水浴場のオーシャンビューをセールスポイントにしている「浜の雅亭 一井」さんでは、現在、この美しい海を守る活動を宿泊されたお客様と協同で行っています。

02





## きっかけは、一組のお客様

「始めたきっかけは、たくさんのごみが入った袋を持ってエントランスに現れたある親子だったんです」、そう話すのは代表取締役社長の岡本 匠さんです。

てっきり家庭ごみの持ち込みだと思ったそうですが、その親御さんから「子供と千鳥ヶ浜で拾ったごみを捨てさせてもらえませんか」と聞かれ、とても驚かれたとのこと。

宿泊施設の従業員が清掃活動をすることはあっても、お客様にごみを拾っていただけるとは想像もしていなかったのです。

このことがきっかけで岡本社長さんは、すぐに動き出しました。従業員で企画担当の徳田 真介さんがインターネットで日本財団と環境省が推進する全国一斉の清掃活動「海ごみゼロウィーク」の参加団体を募集していることを見つけたので早速応募することに。そして、エントランスに「千鳥ヶ浜に漂着したごみ」の特設コーナーを設置しました。

徳田さんは「すべてのお客様が海岸へ行けるわけではないので、海岸へ行くことができないお客様にも、特設コーナーで海岸に漂着したごみの様子を再現することでこんな漂着ごみがあるということを知ってもらえるきっかけとなれば」と話されていました。



### 「千鳥ヶ浜に漂着したごみ」の特設コーナー



「海ごみゼロウィーク」とは、日本財団と環境省が推進する全国一斉の清掃活動。「海ごみゼロ」を合言葉に全国一斉清掃活動を推進しています。

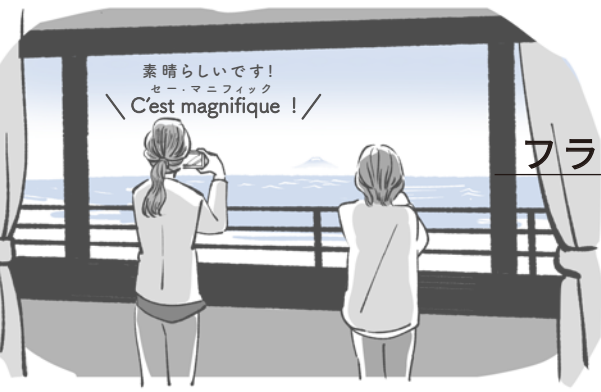


### 私たちが実際に千鳥ヶ浜で一緒にごみ拾いをさせていただきました

空き缶やビン、ペットボトル、ライターなど、どれも私たちの身近なものが多かったですね。日頃から千鳥ヶ浜で清掃している一井の従業員の皆さんだからこそ分かる、特に多いごみをピックアップして特設コーナーに展示されているそうです。また海岸へ行くことのできないお客様への配慮も嬉しいですね。







## フランス人国際交流員 カゾ・ポーリンの感想

個人のお客様が千鳥ヶ浜海水浴場のごみを拾って持ち込まれたということを聞いて驚きました。フランスでも、集団で海岸清掃を行うイベントは開催されていますが、個人でごみを拾うという概念はあまりありません。それは、ごみの発生は製品を製造販売する企業の責任という考え方が強いからです。

フランス人に比べて日本人の方が自らごみを拾う人が多いのは、日本の学校教育が影響しているのだと思います。日本の学校では、自分が使ったものや施設を児童や生徒が掃除することは当たり前ですが、フランスでは児童や生徒が掃除することはありません。そのような教育が意識の高い人の多い社会に繋がっているのではないかと思います。それは素晴らしいことだと思います。

一井さんでは、お客様と一緒に海岸清掃を行う取り組みが行われていますが、従業員の皆さんの千鳥ヶ浜を大切にしたいという想いと、観光客の意識が高いことを目の当たりにした経験がこのような取り組みに繋がり、継続されているのだと感じました。

## 鳥羽市観光商工課 北橋亜由那の感想

お客様が漂着ごみを持ち込まれたことがきっかけで、すぐ行動に移されたことが素晴らしいと感じました。一井さんのInstagramでも、海ごみゼロキャンペーンについて紹介されているので、ぜひ皆さんもご覧ください。

参考までに平成 21 ~ 22 年度に三重県が実施した三重県海岸漂着物等の実態調査では、千鳥ヶ浜を含む鳥羽の海岸には、伊勢湾流域のごみ 11,000tのうち半分以上が漂着するという試算が出ています。一井のみなさんも「海水浴場を利用するお客様のごみはほとんど見当たらない。多くが漂着ごみ」と話されています。

WBC で日本中が盛り上がっている時にこの感想を書いていたら、大谷翔平選手がごみを拾うエピソードを思い出しました。彼は以前、大リーグでプレイ中に球場のごみをさりげなく拾い「ゴミを拾うのは人が捨てた運を拾っている」と表現したことで称賛されました。

私たち消費者一人ひとりがごみを適切に処理する。生産者はごみが発生しないように責任を持つ。そのような行動が、鳥羽の豊かな海が持続可能になることにつながると思います。漂着ごみを自ら率先して拾われている一井さんを称賛し、できることから考え、自分ゴトとして行動に移していきたいですね。



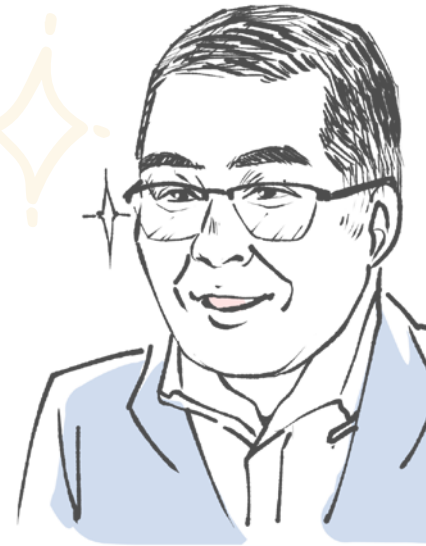
エントランスのライブラリーには、岡本社長さんと従業員の皆さんが探し集めた海に関する本がたくさん。ここでも皆さんの海を大切にしたいという思いが伝わってきます。

## 海女の愛ちゃんの感想

鳥羽の方ってすごく謙虚な印象がありますが一井さんも本当にそうなんです。特設コーナーには、誰もがいつでもごみ拾いに行けるようにごみ袋やごみ拾い用のハサミが用意されています。岡本社長さんによると「ホテルのスタッフが空いている時間にビーチクリーンをしていて、お客様に積極的にお願いするようなことはせず、あくまでも自主性にお任せしている」そうです。誰もが共感できる立派な取り組みなので、もっと広くアピールしてもいいんじゃないかしら？と思ってしまいました。

私も自分の漁場の浜に流れてきたごみを拾っています。毎日見る海にごみがあるのは心が痛みますよね。初めの頃は何でわざわざ拾うんだ？と周囲から不思議がられていましたが、それでも今ではカマド（同じ海女小屋を使用するメンバー）の仲間と一緒にごみ拾いをしています。ある時、一人の先輩海女さんが「あんたはいい事してる。海の神様はしっかり見ているからな、きっとアワビを授かるぞ」と言ってくれました。そうしているうちにアワビを大漁したんです！このことをきっかけに願掛けのようにごみを拾っています。ちょっと動機が不純ですかね（笑）

一井さんのお客様と協同した取り組みは、去年の秋頃からスタートしたとのことですが、相差地区では以前から町内会や観光協会それに老人クラブの皆さんが夏場を中心に海岸や土手の清掃をされているそうです。これからも観光宿泊施設と地元が一緒になって、相差自慢の美しい千鳥ヶ浜を守ってってください。最後に岡本社長さんに「千鳥ヶ浜は一井さんにとってどんな存在ですか？」と聞くと、「千鳥ヶ浜がなかったらここに来てもらう理由がない。かけがえのない存在です」と即答されました。その時の真剣な眼差しがとても印象的でした。



浜の雅亭 一井

三重県鳥羽市相差町 1522-27  
☎ 0599-33-7555



### メンバー紹介

レポーター/写真  
大野愛子



東京都出身海女、フォトグラファー。先日、シンガポールに海女のPRに行ってきました。海女のことは知らなくても、皆さんアワビは好きなので、鳥羽市に興味を持ってくれました。もう少しでアワビ漁が口開けとなります。

レポーター  
カゾ・ポーリン



鳥羽市観光商工課所属。最近、朝熊山に登りました。河内町から内宮までの長い道のりでしたが、鳥羽から頂上までの登山は景観も素晴らしく最高に気持ちよかったです。

フランス語で  
発信中！  
Fantastique  
Toba



レポーター  
北橋亜由那



鳥羽市観光商工課所属。先日、愛ちゃんと塩ワカメを作りました。石鏡の海女さんは販売しないワカメも素潜りで収穫して大切な人に配るそうです。資源を大切にすることが素敵だと思いました。

イラスト/デザイン  
大西絵里奈



松阪市在住イラストレーター。良い行いの連鎖のエピソードが素敵でした。一人一人の意識が変わると習慣が変わり、習慣が変わると行動が変わる。この連鎖が世の中をハッピーにしていけるのだなあ！